

## 歴史を生かしたまちづくり相談室のご案内

当横浜歴史資産調査会では、横浜市と連携し、歴史的建造物の保全活用など歴史を生かしたまちづくりに取り組んでおります。

近年、歴史的建造物を取り巻く状況は大きく変化し、所有者の抱える悩みも複雑化・深刻化してきています。こうした状況を少しでも打開すべく、歴史的建造物所有者等を対象に、専門家や関係団体、行政が連携して具体的な対応策について提案していきたいと考え、まちづくり相談室を開設致しました。相談は無料で、どなたでもお申込みいただけますのでお気軽にどうぞ！

ご相談内容の送付は、公益社団法人横浜歴史資産調査会内「歴史を生かしたまちづくり相談室」係まで

相談方法、相談内容等については右段をご参照下さい。

送付先 〒231-0012 横浜市中区相生町 3-61 泰生ビル 405 号室

電話・FAX 045-651-1730

Eメール [yh-info@yokohama-heritage.or.jp](mailto:yh-info@yokohama-heritage.or.jp)

※電話は、毎週水曜日から午後 3 時まで

(年末・年始・祝日を除く) 受け付けますが、その他は随時どうぞ。

### ヘリテイジにご寄付を！

ヨコハマヘリテイジでは、横浜をはじめとした国内の歴史的資産の保存活用に向けて、皆様のご寄付をお願いしております。各地に眠っている歴史的資産を地域の宝、日本の宝、世界の宝として、将来に渡り受け継いでいくために、皆様方のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

ご寄付を頂いた方には、個人の皆様には、所得税等の控除に使える免税証明書、法人の皆様には法人税の控除に使える税額控除証明書を発行致します。また、金額に応じた記念品を贈呈致します。

1 相談方法については、ヨコハマヘリテイジのホームページに直接入力または相談シートに必要事項をご記入し、郵送、e-mail、ファクシミリ等でお申込み下さい。電話による相談も可(毎週水曜日)

2 相談内容例としては、自宅は古いが、歴史的価値があるのかわからないので調べてほしいとか、建物は残したいが、相続が発生すると家族で持ち続けることが困難なので良い方法がないか?とか、歴史的建造物の改修を任せられる腕のいい職人を教えてほしいなど、歴史的建造物に関わるものであればどのようなことでも OK です。

3 ご相談の対応については、相談内容を専門家、ヘリテイジ職員、横浜市都市デザイン室職員等が問題を検討し、応じることにしています。必要に応じて現地確認や詳細のヒアリング、アドバイザー派遣等をする場合もあります。

### 【2017 年度 賛助会員の皆様】

いつもご支援をありがとうございます

お菓子を通じて横浜の歴史文化を継承します。株式会社 三陽物産

公益財団法人 はまぎん産業文化振興財団

相鉄企業株式会社

横浜市大倉山記念館

JTB 横浜支店

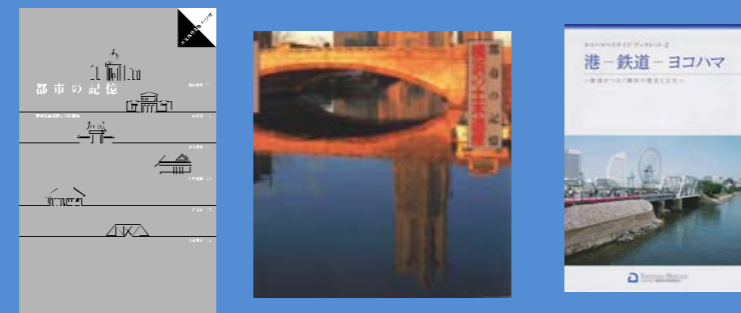
### ヨコハマヘリテイジ刊行物のご案内

お求めは下記連絡先の事務局までご一報ください。

A. 都市の記憶-横浜の主要歴史的建造物第 6 版 定価：700 円(税込)

B. 都市の記憶-横浜の土木遺産 定価：1,200 円(税込)

C. 港-鉄道-ヨコハマ 定価：300 円(税込)



A

B

C

【1口~9口】(1,000円~9,000円)

・都市の記憶-横浜の主要歴史的建造物第 6 版

【10口】(10,000円) 下記を 1 セット

・横浜●開港の舞臺-関内街並復元絵圖

(長さ：10メートルの絵巻物) 絶版品 60 限定

・都市の記憶-横浜の主要歴史的建造物第 6 版

・港-鉄道-ヨコハマ~鉄道がつなぐ横浜の歴史と文化~



### ヨコハマヘリテイジは免税団体です

歴史的資産の保存活用を推進するために、皆様のご寄付をお願いしております。ご寄付を頂いた方には、免税証明証を発行いたします。確定申告の際に控除となります。

【ヨコハマヘリテイジスタイル 2017 初秋号】 平成 29 年 8 月 17 日 発行

公益社団法人 横浜歴史資産調査会 (ヨコハマヘリテイジ) 〒231-0012 横浜市中区相生町 3-61 泰生ビル 405 号

Tel : 045-651-1730 mail : [yh-info@yokohama-heritage.or.jp](mailto:yh-info@yokohama-heritage.or.jp)



大岡川の景観にマッチした都橋飲食店街の姿は横浜の宝



夜は憩いの場として輝く都橋飲食店街



## 公益社団法人 横浜歴史資産調査会 平成29年度の仕事

当社団の活動には、多々ご支援ご協力を賜りありがとうございます。

お陰様で横浜市都市デザイン室と両輪となって「歴史を生かしたまちづくり」を順調におこなっております。

今年度は、内閣府認定の公益社団法人となり 4 年度目を迎えます。これを機に歴史的資産の保全・活用を目的とした調査研究事業のほか、この成果を踏まえ、自ら歴史的資産を所有、管理、公開する事業を推進することになりました。

また、歴史的資産の保存・活用のためセミナーや見学会、ヘリテイジブックレットの発行等も積極的に行っており参ります。(ホームページ参照)

引き続き皆様方のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

◎本年度のトピックスは、「野毛都橋商店街ビル」の保全・活用

昭和 39 年 (1964)、東京オリンピック開催前に、屋台等の収容施設として横浜市が新築した由緒ある建造物です。今年で建設から 53 年を経て歴史的資産としての価値が高まり、縁あって当公益社団法人が取得し、横浜市登録歴史的建造物として末永い保全・活用を目指す仕組みができあがりました。

現在、前所有者の公益財団法人横浜市建築助成公社が耐震工事等を進めており、まもなく終了予定です。

シルクロード・ネットワーク・  
ふくしまフォーラム 2017 開催

シルクロード・ネットワーク・横浜フォーラムから数えて3回目、昨年の山形県新庄市に続き、養蚕の拠点、東北地方の福島市で「信達地方 絹文化をいかしたまちづくり」をテーマに開催いたしました。

福島市を含む「信達地方」は、江戸期から明治期にかけて東北地方の養蚕や蚕種の一大拠点であり今もその輝きは失っていない。今回のフォーラムでは、見学会で福島市民家園での「奥州座繰り器」を使用した生糸取りと絹織り伝承の現場や郊外の飯岡町の養蚕農家を訪れ養蚕業を体感しました。一方、事例発表では、二本松市のブランド蚕品種「松岡姫」、川俣町の羽二重に端を発した世界一薄い絹織物「フェアリー・フェザー（妖精の羽）」さらに伊達市が誇る結城紬の紬糸である「入金真綿」の生産等からも地場産業として元気に息づく姿に触れ感動の連続でした。これに全国各地からの報告が花を添えました。

中でも、「蚕都上田」として戦略的に絹文化を活かしたまちづくりを行う上田市、入間市で開催された埼玉県を中心とした街の集いである「彩の国・絹と木綿ものがたりフォーラム」、東京都日野市の旧蚕糸試験場の取得、保存と活用など積極的な取り組みが話題となった。横浜市からは、公益財団法人横浜市緑の協会が生糸貿易で繁栄した横浜の証としての山手西洋館等の保存・活用・公開や関連イベントをまじえて紹介されました。

米山淳一（公益社団法人横浜歴史資産調査会常務理事・事務局長）



挨拶する福島市長小林香氏

実は、福島を中心とした東北地方の生糸や絹織物は、明治32年（1899）奥羽本線福島ー米沢間開通や明治38年（1905）の東北本線福島ー青森間全通で一気に横浜に鉄道で運ばれるようになったのです。

我が国の近代化の礎にもなった絹産業を東北の蚕都である福島市で開催できたことは意義深いと感じました。

2018年度のフォーラムは、山形県鶴岡市で開催いたします。

なお、今大会資料をご希望の方は、一冊700円（送料込み）でお分けいたします。事務局までどうぞ。



入金真綿は伸びる伸び～



参加者で記念撮影

シルクロード・ネットワーク  
ふくしまフォーラム 2017 開催

梅津 司（福島市教育委員会文化課文化財係）

今年で第3回目となるシルクロードネットワークフォーラムは平成29年7月8日～9日に福島市で開催されました。本市は古くは信夫郡に属し、隣の伊達郡とともに信達地方と呼ばれ、江戸期には「奥州蚕種本場銘」を許された養蚕地帯で、地域内で蚕種、養蚕から製糸、織物までを分業して担い、その富により明治32年に全国で8番目、東北初の日銀支店（出張所）が開設されるほどの繁栄をみせました。

初日の現地視察では、まず古民家を移築復元した福島市民家園を訪れ、明治期の養蚕農家の建物である「旧小野家」での蚕種家との対談や、民家園手織りの会の機織り実演、また絹で栄えた梁川町の有志が娯楽を求めて建築した芝居小屋「旧広瀬座」を見学しました。その後、市内に5戸を残すのみとなった養蚕農家を視察、最後に W.M.ヴォーリズ設計の福島新町教会において、南東北の布教拠点であった福島の位置付け、震災後の建物維持のご苦労等をお聞きしました。

視察終了後は福島の地酒を囲んだ交流会が賑やかに開催され、二次会以降は名物円盤餃子など、懐の深い夜の福島の街を堪能された方も多かったようです。

2日目はコラッセふくしまを会場とし、「信達地方の養蚕・生糸・機織り（村川友彦氏）」「シルクの文化を活かした地域づくり（脇坂隆一氏）」「シルク・絹産業資産のネットワークの大同団結を（佐滝剛弘氏）」という3つの基調講演をいただき、後半は後藤治、米山淳一両氏の絶妙なコーディネートにより、新庄市、鶴岡市、日野市、横浜市、入間市、上田市、千曲市、川越市、前橋市という錚々たる絹文化の先進地の事例を報告していただきました。最後に地元の取り組みを、福島市、国見町、二本松市、伊達市の各自治体、また現在も産業として世界的な技術力を誇る川俣町の（株）齋栄織物、手織り文化の継承を図る民家園手織りの会の活動をご紹介します。シンポジウムの参加者は122名を数え、全国からお越しの皆様は福島の絹文化遺産をお知らせすることが出来たとともに、近代日本の歩みそのものと言える絹産業と文化の歴史に思いをはせる2日間となりました。



事例報告をする鶴岡市の田中氏



多くの方々を迎えたシンポジウム会場



飯野町斎藤氏の蚕室を見学



交流会



福島の手織りの展示

